

<別紙>

バーチャルパワープラント（VPP）構築実証事業の概要

1. 2016 年度の主な実証内容と結果

<AC システム開発>

アグリゲーションコーディネーター（AC）システムの要件定義を行い、AC システムのプロトタイプを開発しました。

<リソースの整備>

家庭用および業務・産業用需要家へのリチウムイオン電池の新規導入（約 3.4MWh）を行いました。また、既設の業務・産業用需要家の NAS 電池に制御ユニットを搭載し、10 分前、1 時間前、4 時間前の各メニューにおけるダイヤモンドリスポンス（DR）実証を実施し、結果として、全てのメニューに対して高い DR 成功率を確認しました。

2. 2017 年度の主な実証内容と結果

<AC システムの改良>

2016 年度に開発したプロトタイプを改良し、指令後 15 分以内または 5 分以内に調整力を提供可能な AC システムを構築しました。

<リソースの拡充>

2017 年度から新たに 3 社のリソースアグリゲーター（RA）の参画を得るとともに、2016 年度から継続して参画している事業者も積極的にリソースの拡充を行い、制御容量ベースで 12.4MW 超のリソースを確保しました。

<技術実証>

技術実証に関して、約 7MW の制御指令に対応することで MW レベルの出力を制御できることや制御量の平均乖離率の最良値 2% などの成果を得ました。

また制御量変更への対応や、即応性の高い蓄電池と持続性に優れる自家発など特性を活かしたリソースの組み合わせによる運用方式を実現しました。

<ビジネスモデルの検討>

アグリゲーションビジネスの事業性検証（損益分岐点分析）を行い、ある一定の条件のもとで、単年度の損益分岐点を上回るためには、数十 MW 程度のリソースの活用が必要であることを示しました。

3. 2018 年度の主な実証内容

<AC システムの改良>

2017 年度に開発した AC システムに対し、2018 年度の技術実証を踏まえ、制御量調整機能や市場価格連動制御機能等を追加実装します。

<リソースの拡充>

2018 年度から新たに 8 社の RA の参画を得るとともに 2017 年度から継続して参画している事業者も積極的にリソースの拡充を行います。

<技術実証>

需給調整市場を見据えた共通実証等を実施します。

https://sii.or.jp/vpp30/uploads/H30VPP_haihusiryu_setsumeikai.pdf

<配電系統の安定化>

分散型の再エネの導入増加による配電系統におよぼす影響評価を行います。また、RAが需要家リソースの制御を行うことで配電系統に与える効果を定量的に把握し、電圧対策機器の導入削減効果を検証します。

【リソースアグリゲーション事業】

